

## 2025年5・15 沖縄平和行進に参加して

全日本港湾労働組合関西地方大阪支部朽木協鐵分会  
青年部事務局次長 津村拓哉

2025年5月16日～19日、沖縄平和行進に参加してきました。この時期になると、分会の先輩から「良い経験になるから、一度は参加した方が良い」と聞いていました。分会でも事前学習会を開いてくれましたが、あまり物事に関心を持ってない自分でも、本当に感じるものがあるのだろうかと不安もありました。

1日目は全国結団式から始まり、三単産結団式がありました。

2日目からいよいよ平和行進が始まり、普天間基地コースを歩きました。冒頭「今年沖縄地方は梅雨入りしないのでは」というほど珍しく強い日差しの中での行進になるので、熱中症に気を付けてほしいとありました。いざ行進をすると仲間のシュプレヒコールで気合いが入り、行進団の中でずっと大きな声を出してシュプレヒコールを叫んでいました。声をずっと出して引っ張っている人の姿を見て、自分も引っ張る側になろうと思いました。予想以上の暑さと日差しで、長い道のりを歩く事がどれだけ過酷かが身に染みてわかりました。足を引きずりながらも歩いている人もいたり、年輩の人が歩いている姿を見ると、頑張ろうという気持ちになれたり、地元の方から手を振って頂いたり、幼稚園からは子供達の声援ですごく感動して本当に平和行進に参加して良かったなと思いました。

沖縄タイムスの記事によれば、沖縄平和行進には2200人が参加したそうです。全国から多くの団体が結集し、皆が同じ目的を持って行進している姿を見て「これが団結か！」と実感しました。実際に参加しないと分からない、言葉では表現し難い事だと思いました。行進が終わり沖縄地本で青年交流会が開かれ、真剣に話す人、笑いをとる人、場の空気を盛り上げる人、色々な人と交流を持って楽しく過ごせました。

3日目は旧海軍豪からひめゆり資料館、平和記念公園と行きました。戦争は二度と繰り返しては行けないと思いました。

4日目は2014年から辺野古新基地建設の反対運動をされている仲宗根氏に現地案内して頂きました。このような活動をされている方は、やはり言葉に重みがあり芯がしっかりしている、自分にはそう感じました。ゲート前に座り込んで工事車両を止めようとする約80名の人々を見て「同じ日本なのに沖縄では大きな問題がある」と色々考えさせられ複雑な気持ちになりました。数の力の凄さを知った反面、なぜもっと人が集まらないのかと疑問を抱きました。自分や家族、身近な人の問題なら動こうとする人は多いはず、しかし沖縄の人口146万人に比べると余りにも少なく、沖縄には関心がある人が少ないのかと感じました。仲宗根氏からは「現状基地建設を止める事は難しく、今は遅らせる事しかできない」と言っていました。難しい話ですが、他者の問題を自分の問題として捉える人が増えれば少しは平和になるのかと思いました。

最後になりますが、沖縄についてもっと知ろうと思えた4日間になりました。

三単産、沖縄地本の方々、仲宗根さんありがとうございました。平和行進に参加して平和に対する思いや、反戦に対する思いが今まで以上に強くなれました。これからもこの様な活動をしていきますので団結して頑張っていきたいと思います。

以上